

大活躍じゃ!



大江氏の活動した地域 (寒河江市と近隣の町)

大江氏は鎌倉時代後期に寒河江荘を直接治めるようになりました。寒河江荘はおおよそ今の寒河江市と西村山郡(西川町・大江町・河北町・朝日町)が該当します。これらの市町には城や橋、菩提寺、古戦場など、大江氏ゆかりの場所が数多く伝わっています。



大江氏とその歴史



大江氏の家紋「一文字三ツ星」

鎌倉幕府で源頼朝の側近だった大江広元(おおえのひろもと)は、文治5年(1189)寒河江荘の地頭となりました。広元は多忙なため、妻の父である多田仁綱(のりつな)を寒河江に派遣し、現地を治めさせたといいます。承久3年(1221)に起こった承久の乱で、広元の長男・親広(ちかひろ)は上皇方に付いたため、寒河江に敗走したと伝わります。

広元から数えて5代目に当たる元頼(もとあき)からは、鎌倉を離れて寒河江を現地で直接治めるようになります。南北朝時代の戦いの中では、大江氏は防御のために領内に支城を設置しました。8代時氏(ときうじ)の頃に寒河江城は三の丸まで拡張し、そのお堀の用水に引かれたのが二の堰でした。また、領内には当主や一族の菩提寺や保護を受けた寺院が数多く作られています。天正12年(1584)、18代高基(たかもと)は山形城主・最上義光との戦に敗れ、6月28日御楯山(大江町)で自害し、寒河江大江氏は滅亡しました。

大江氏が寒河江を治めた400年間、とくに直接治めた元頼以降の300年間の影響は、地域の成り立ち、寺社、文化など様々な面で現在でも数多く残っています。

寒河江市への交通アクセス

JR	東京	山形新幹線 2時間30分		山形	左沢線
	仙台	山形線	26分		
	東北新幹線	1時間38分	1時間7分		
飛行機	東京	1時間		山形空港	タクシー
	名古屋	1時間5分			25分
	大阪	1時間15分			
	札幌	1時間15分			
車	東京	東北自動車道	村田	山形自動車道	
	仙台	3時間27分(315km)	田子		41分(53km)
	仙台	東北自動車道			
	新潟	12分(18km)			
	新潟	国道113号と国道287号			
		2時間5分(164km)			

- JR寒河江駅
☎0237-86-2861
- 山交バス寒河江営業所
☎0237-86-2181
- 寒河江タクシー
☎0237-86-5151
- 中央タクシー
☎0237-86-4111



大江広元ゆかりの地

巡ってみよう 寒河江市

大江氏マップ





新感覚の
映像体験で
歴史に迫る

「慈恩寺テラス」



大型の4Kラウンドシアターを
備えてオープン！

国史跡慈恩寺旧境内を総合案内する施設「慈恩寺テラス」が、令和3年5月にオープンしました。
3m×20mの4Kラウンドシアターや、巨大ジオラマに投影されたプロジェクションマッピングなど、最新の映像技術で慈恩寺の秘められた歴史と魅力を紹介。施設内には、休憩スポット「寺そば・寺カフェ」も。



慈恩寺テラス TEL.0237-84-6811
山形県寒河江市大字慈恩寺1178-1
開館時間/9:00~17:00 第2火曜定休
慈恩寺テラス 検索



本山 慈恩寺

1300年の歴史を刻む東北の巨刹

慈恩寺は、天平18年(746)、聖武天皇の勅命でインド僧愛羅門僧正が開いたと伝えられている古刹です。平安時代には摂関家藤原氏、中世には大江氏の庇護を受け栄え、江戸時代には幕府から寺領2,812余石の御朱印を受けて東北随一の巨刹となりました。

広大な境内には本堂、三重塔、薬師堂などが立ち並び、厳かに静寂の時を刻んでいます。諸堂に安置された平安、鎌倉時代の仏像群は、内外の脚光を浴びています。また、一切経会(5月5日)に奉養される慈恩寺舞楽には、伝承された古の文化を見ることができます。平成26年10月には「慈恩寺旧境内」として国史跡に指定されました。

◎慈恩寺事務所 TEL.0237-87-3993

国指定文化財 (非公開の仏像もありますので、ご了承下さい。)

- 建造物 本山慈恩寺本堂 …… 1 棟
- 彫刻 木造弥勒菩薩及諸尊像(附弥勒菩薩像内納入品) …… 5 座
- 木造釈迦如来及諸尊像 …… 10 座
- 木造薬師如来及両脇侍像 …… 3 座
- 木造十二神将立像(附木造十二神将立像(真、牛、米、市)) …… 12 座
- 木造聖徳太子立像 …… 1 座
- 無形民俗 慈恩寺舞楽(林家舞楽)
- 史跡 慈恩寺旧境内



さくらんぼと各種くだもの



さくらんぼ

寒河江市は「日本一さくらんぼの里」として全国にその名を知られています。中国の実桜である「桜桃」という名をもつさくらんぼは西アジアが原産。4月下旬に純白の花が満開となり、6月上旬〜7月中旬にかけて真っ赤なルビー色の実がたわわに実ります。県内外からのさくらんぼ狩りの観光客で、寒河江が大いに賑わう季節の到来でもあります。



さくらんぼ狩り

たわわに実った真っ赤なさくらんぼを、自分の手で摘み取って食べてみませんか。もぎたての味は格別の美味しさ。ぜひ一度、寒河江のさくらんぼをご賞味ください。

期間:6月上旬〜7月中旬 料金:1700円
問合せ:周年観光農業案内所(チェリーランドさくらんぼ会館内)
TEL.0237-86-1811 FAX.0237-86-9922

くだもの狩りカレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
食	いちご			ブルーベリー			柿				雪中いちご	
入			さくらんぼ		もも	ぶどう	りんご					

各種くだもの狩りのお問い合わせは、TEL.0237-86-1811 さくらんぼ会館へ

チェリーランドさがえ

さくらんぼをモチーフにした
テーマパーク！

山形県内各地の工芸品・名産品そして味が一堂に集まった観光物産センター、トルコ館、レストラン、大広間、会議室があり、ショッピングや休憩にご利用ください。



国際チェリーパーク

日本や外国12カ国のさくらんぼ114種類139本が植栽されているほか、四季を通じた果樹(ウメ、リンゴ、ブドウ、カリン、モモ、ラ・フランス、ブルーベリー、ナシなど)を中心にせせらぎや、あずまやを配した公園です。

さくらんぼ会館

スペースシャトルをイメージしたピンクの建物。館内には、さくらんぼの歴史や栽培に関する写真やパネル、故宮田雅之画伯の切り絵なども展示しています。他に、道路情報サービスやくだもの狩りのご案内も行っております。また、地元の素材などを活かした、個性豊かなアイスクリームも販売しており、年間を通して人気を集めています。



まつり歳時記



季節の訪れとともに数々のまつりが巡ります。寒河江はまつりの里でもあります。雪が消えると一緒に萌え出す野の草花、山の樹々。春の訪れ、雛まつり。花々が舞う、さくら、つつじまつり。初夏の爽風、さくらんぼまつり。青春が透きとおる秋、神輿の掛け声、流鏝馬、寒河江まつり。しんと降りる雪に眠るがことき冬の田園。春夏秋冬の輝きにまつりが綾なす寒河江の四季。

3月〜4月/雛まつり

○市内

徳川幕府の幕領として栄えたここ寒河江には、紅花を主とした最上川舟運の栄華を現在に伝える江戸時代の雛が、数多く残っています。



9月中旬/寒河江まつり

○寒河江八幡宮と市内

- 流鏝馬(やぶさめ)
 - 奴道子
 - 神輿の祭典
 - 臥龍太鼓まち巡り
 - ふるさと芸能まつり
 - グルメイベント
- 伝統的な祭りが繰り広げられます

6月〜7月上旬/さくらんぼまつり

○市内

さくらんぼが実る6月、寒河江市では週末を中心に多彩なイベントを開催しております。市内ではさくらんぼ狩りも楽しめる、街はさくらんぼ一色に染まります。



全国さくらんぼの種あきとばし大会

11月下旬〜2月中旬/やまがた音と光のファンタジア

○チェリークア・パーク

12万球以上のイルミネーションが寒河江の冬を彩ります。期間中、最上川ふるさと総合公園内で毎日行われる幻想的な音と光の演出は見ごたえがあり必見です。スペシャルデーもあり、老若男女問わず日中から楽しめるイベントも開催します。

寒河江でやきとりといえば「豚肉」

豚足や煮込みなどのサイドメニューも人気！



「寒河江やきとり」は、昭和30年に創業したお店から市内に広まり、多くの市民に愛されてきた寒河江市が誇るB級グルメです。

寒河江のやきとりは主に豚肉で、ゴロゴロとしたボリューム感があるのが特徴。タン、カシラ、レバー、サガリなどの豚モツが定番です。

豚足や煮込みなどのサイドメニューも人気。やきとりが焼き上がるまでの間、サイドメニューを味わいながら待つのが、寒河江やきとりの楽しみ方です。

それぞれのお店毎にこだわりや特徴がありますので、食べ比べて、自分好みの味を探してみたいはいかがでしょうか？

寒河江温泉

源泉100%かけ流しの美肌湯

寒河江温泉

昭和29年に酒造や染物の井戸水として掘ったところ湧き出た寒河江温泉。寒河江駅に近い市街地を中心に数軒の宿が点在します。湯量たっぷりの100%かけ流し。寒河江特産品のバラを湯船に浮かべたユニークな風呂が評判で、美肌に効果があると女性に人気の親しみやすい温泉です。

新寒河江温泉

昭和55年に市の南部、高瀬地区に湧き出した新しい温泉です。年間12万人が訪れる市民浴場や、チェリークア・パークの温泉施設は人気スポットになっています。一帯は縄文時代や平安時代の集落跡である「高瀬山遺跡」です。

宿泊施設	(1) 割烹旅館 吉本 …… ☎84-2138	(6) ホテルシンフォニー …… ☎86-2131
	(2) 賀原旅館 …… ☎86-4630	(7) 割烹旅館 叶屋 …… ☎84-3034
	(3) ホテルタウンスガエ …… ☎86-8686	(8) ホテルシンフォニーアネックス …… ☎83-1222
	(4) こころの宿 一龍 …… ☎86-2233	(9) ホテルサンチェリー …… ☎83-5000
	(5) 割烹旅館 福よし …… ☎84-2661	(10) チェリーパークホテル …… ☎83-1511
温泉施設	(1) ゆ〜チェリー …… ☎83-1414	(3) 市民浴場 …… ☎86-1126
	(2) みづみ温泉 吉乃ゆ …… ☎85-1300	

※市民浴場 ◇午前6時30分〜午後9時(休館日 毎月第2木曜日) ◇入浴料/大人200円・子ども100円

チェリン

平成23年に、市の特産品であるさくらんぼをモチーフにしたイメージキャラクターのデザインを募集したところ、全国から多数の応募を頂きました。

寒河江市観光キャンペーン推進協議会による一次審査、市内小学生及び市民の人気投票による二次審査の結果、最優秀賞に塩崎まさよ様の「チェリン」が選定されました。

現在、さまざまな場面で寒河江市のPR活動等に広く活躍しております。

COMMENT

「チェリン」制作者/塩崎まさよさん(大阪市生野区)

寒河江市のシンボル「さくらんぼ」妖精をイメージし、お子様からお年寄りまで幅広く親しみを抱いていたくなるような愛らしいゆるキャラとしました。昔には「寒河江のそば」のマフラー、市の花「つつじ」が描かれた服を着ています。また、服の緑色は寒河江の緑豊かな表現。元気よくジャンプし、躍動感あるポーズは寒河江市の更なる飛躍を表現しています。





① 寒河江城跡 (地図:E-6)
寒河江大江氏の拠点であるお城。8代当主・時氏とくじが当主だった室町時代に、二の丸・三の丸まで拡張したといい、南北約550m・東西約400mの城となりました。今でも道や堀の跡をとどめています。

② 二の堰（地図：C-5）
寒河江城を三の丸まで拡張した時に作られたという水路。寒河江川から取水し、寒河江城三の丸のお堀や流路沿いの田畑への用水として使われました。高松堰と谷地大堰もあり、大江氏により農業振興が図られたと言えます。

③ 澄江寺 (地図:E-5)

寒河江大江氏13代当主・知広(ともひろ)の菩提寺。9代元時の三男・全岩東純和尚は大寧寺(山口県長門市)の住職を務め、知広が寄付した領地によって澄江院が建ちました。その後、寒河江にも澄江院が建ち、後に澄江寺と改称しました。

4 本橋館跡 (地図:F-7)
寒河江を治めた館(屋敷)跡と伝わる場所。大江
玄元に代わり、妻の父・多田仁綱が寒河江を治
めるためにここに屋敷を築いたといえます。この
すぐ東には最上川が流れていました。今でも堀
や土塁の跡や川の跡が残っています。

5 慈恩寺 (地図:A-3)
寒江大江氏が援助した寺院。鎌倉後期に5代元順(もとあき)が寒江を直接治めたころ、火災に遭った慈恩寺の復興に協力したと考えられています。本堂には、大江氏の家臣・郷目右京進賢賢が描いた絵馬も飾られています。

⑥ 最上院 (地図:B-3)
慈恩寺の別当。室町時代、大江氏一族から3人もこの住職に就き、大江氏と慈恩寺の関係を強固なものにしていきました。家紋は大江氏の「一文字三ツ星」で、戊辰戦争では長州藩士がこの家紋に興味を示した記録があります。

7 慈恩寺テラス (地図: B-3)
令和3年5月にオープンした国史跡「慈恩寺旧境内」を紹介する施設。大江氏と寒河江や慈恩寺との関係にも触れており、大江氏の治めた400年間に寒河江や慈恩寺にもたらされた文化を知ることができます。



③ 高瀬山 (地図:G-5)

伊達種宗が陣を構えた場所。永正18年(1522)、奥川(福島県伊達市)の種宗が大江氏を攻め、葛西・岩城・相馬・会津・宮城・国分などの兵を連れて陣を構えました。なお、高瀬山は旧石器から平安時代代の遺跡としても知られます。

② 白岩城跡（地図:A-1）
大江氏の支城。6代・元政は山形の斯波兼頼との戦いに敗れた後、防衛強化のため領内に支城を作ります。白岩城もその一つでした。東西600m・南北450mの区域に5つの櫓がある巨大な山城です。

⑩ 寒河江市郷土館 (地図:D-4)
明治時代に建てられた郡役所庁舎と議事堂。今の寒河江市と西村山郡を治めるため、明治10年代に建てられました。館内には、寒河江城跡の発掘調査で出土した考古資料も展示しています。
※4月第20土曜～11月第2日曜の土日祝日のみ開館

法泉寺 (地図:E-5)
寒河江大江氏14代当主・宗広(むねひろ)の菩提寺。戊辰戦争の時、寒河江に来た長州藩士の土野他吉郎と大枝鉄次郎が、藩主毛利氏と同じ先祖を持つ大江氏の菩提寺であることから、お参りしたことが記録にあります。

⑫ 陽春院 (地図:E-5)
寒河江大江氏15代当主・李広(たかひろ)の菩提寺。戊辰戦争の寒河江戦闘で、幕府軍であった桑名藩(三重県桑名市)などの戦死者19名を当時の住職が境内に弔いました。その墓は「桑名藩十士の墓」として保存します。

③ 寒河江市役所 (地図:E-5)
昭和42年(1967)竣工の市役所庁舎。設計は黒川紀章氏で、扉の取っ手と中のオブジェ「生誕」は岡本太郎氏によるものです。吹き抜けの上には大江氏の家紋が刻まれており、寒河江市が大江氏ゆかりの地であることを示しています。

城・櫓

A photograph showing a stone torii gate and a traditional wooden shrine building with a tiled roof, surrounded by trees and greenery.

大江氏は、鎌倉時代後期の1280年代に鎌倉を離れて寒河江に移り住み、直接治めるようになります。その後、南北朝時代(1331年～1392年)となり、南朝方に味方した大江氏は、北朝方である山形の斯波兼頼と対抗します。そのため、大江氏は領内に城や櫓を築き、そこに一族を住まわせて守りにあたらせました。その位置を見ると、寒河江城を取り囲むように配置されていることがわかります。

寺院

大江氏の当主が亡くなると、菩提を弔うため寺が建てられました。また、大江一族に関係する寺もあります。このため、寒河江市内、特に寒河江城跡の近くには寺が多くあります。13代・知広が当主だった室町時代の頃から菩提寺は曹洞宗の寺となりました。こうしたお寺の紋には大江氏の家紋である「一文字三ツ星」が使われています。

鎌倉～戦国時代にかけては、戦乱の時代でした。大江氏も、山形を治めていた斯波氏やその子孫の最上氏と対立していました。大江氏がよくそに攻めに行ったことはほとんどありませんが、領内には長岡山の北など戦場となつた所があります。西暦1500年代は何度も戦いがあり、戦乱の時代の様相が色濃くなっています。

用水堰

高松堰と八咫堰(二の堰)は、高松市内の寒河江川から取水している用水堰です。いずれも大江氏の時代に開かれたとされ、高松堰は栄橋地区まで、八咫堰は寒河江地区まで流れています。このほか、河北町を流れる谷地堰もあります。流れる水は農業や生活、染め物

[illegible]